

疼痛緩和する薬 疝気には効き目

Q 四十歳、女性。十五歳で慢性副鼻腔炎、十九歳で卵巣嚢腫（のうしゅ）の手術を受けた。さらに二十八歳では子宮外妊娠、三十歳では急性腹症のため手術を受けました。三十五歳ごろから全身の体調が思わしくなく、腰痛・頭痛・腹痛に悩まされています。冬にはしもやけができるようになります。冷えに敏感で電気毛布を必ず使っています。椎間板ヘルニアと診断を受け、牽（けん）引療法などを受けましたが改善しないため、また手術を勧められています。

に体力に自信がなくなり、精神的に不安定になって、痛みにも敏感になった。

夏にはクーラーで頭痛や腰痛が起こり、夜は電気毛布などで体を温めないと眠ることができなくなりました。痛みは必ずしも神経支配と一致しないことから「心因性」の痛みではないかといわれています。また慢性膵（すい）炎の疑いなど原因不明の腹痛のため、内科や心療内科に通院しているという。

このような状態を古人は「疝気（せんき）」と呼び、血行をよくし、体を温め、疼痛を緩和する漢方薬を伝えている。質問者の場合は当帰四逆加呉茱萸生姜湯（とうきしぎやくかごしゆめしょうきょうとう）という薬が最適であるから、手術せずに試みることをお勧めする。

A 何度か手術を受けた後、原因がはっきりしない慢性疼痛（とうつう）に悩んでいる方は少なくない。質問者は何度も手術を受けた後徐々に

手術せずに試みることをお勧めする。